

研究課題名	【演題番号 14】 LGG 乳酸菌を併用して行う経口免疫療法の有効性を検証する研究
フリガナ	ミウラ ヨウコ
代表者名	三浦 陽子
所属機関（機関名） （役職名）	独立行政法人 国立病院機構 相模原病院 医師
本助成金による発表 論文, 学会発表	第 59 回 日本小児アレルギー学会学術大会 APAPARI2022 合同開催

研究結果要約

(目的) 症状誘発閾値が低い重症なピーナッツ・鶏卵・小麦アレルギー児に対し、乳酸菌を併用した少量を目標とした経口免疫療法(OIT)の効果を検証した。

(方法) 少量 OIT に乳酸菌を併用し(介入群)、12 ヶ月後に 2 週間除去後の中等量の食物経口負荷試験を実施し、中等量耐性獲得の有無を乳酸菌併用なしの OIT(対照群)と比較した。介入群で、開始時、1 ヶ月後、12 ヶ月後の腸内細菌叢の変化を測定した。

(結果) 中等量を耐性獲得したのは、ピーナッツ OIT で介入群 21%(4/19) vs 対照群 11%(2/19)、鶏卵 OIT で 0%(0/18) vs 6%(1/16)、小麦 OIT で 0%(0/12) vs 0%(0/11)であり有意差は認めなかった。ピーナッツ OIT では、*Lactobacillus* 属は開始時と比較して 1 ヶ月後と 12 ヶ月後に増加した(p=0.03、0.08)。また、*Lactobacillus* 属と酪酸産生菌の *Subdoligranulum* 属は、中等量耐性獲得群の方が未獲得群よりも、開始時と比較して 12 ヶ月後に有意に定着した (p=0.01、0.02)。

(結語) ピーナッツの乳酸菌併用 OIT では、アレルギー反応抑制反応が誘導される可能性が示唆された。OIT の有効性に関しては、今後の症例集積後の検証が望まれる。